

学習シート例2①

区分	かず・算数・数学	実務	
項目	お金の計算(買い物)		
<この学習に取り組む意味> ・お金は、生活の中で、重要な働きをしている。 社会生活や将来の生活で、「お金を払う」機会が多い。 「切符を買って電車に乗る」「好きな物を買物する」「レストランで食事をしてお金を払う」「貯金をして好きな物を買う」、「そのために働くことに意義を見出す」など、たくさんの意味がある。 社会や将来での実際の活用をめざしてお金の計算の学習をすることは、上記につながる大切な学習であると考えられる。 そこで、算数や数学の課題としてお金を正確に払えるようになるという目標が重要と考えられる。 ただし、お金の計算ができないと、買い物に行けないわけではない。 買い物に行く課題と、お金の計算の課題は、双方考え合わせながら実施することが重要であろう。			
<キャリア教育の観点から> ・かず(算数・数学)的な内容としては、お金の種類を知って、およその金額を理解し、品物の金額に応じて正確にお金を払う、ということが課題である。			
<障がい特性の観点から> ・お金を手本通りに出すことはマッチング等で理解しやすいが、お金の量を把握して、大小がわかる、等価(100円＝50円玉＋10円5個など)を理解させるのには、目で見てわかりやすい説明が必要である。			
<教科(項目)の系統性又は前提となる力> ・お金を扱う(手先の活動)ことができること。 ・お金を見分けることができる。			
段階	内容	方法	発達年齢
1	お金の種類を知る。	・お金を分類ケースに入れるなど、種類ごとに分類する(マッチング)。 ・お金を提示し、そのお金を複数の中から取る。 ・お金を提示し、お金の名称を応える。	
2	お金を提示された通り出すことができる。	・「〇百〇十円」などと書いたお金を実際に取り出すことができるように練習する。まずは「50円」など同じ金種だけから始め、複数の金種が混じってもとれるようにする。 ・始めはお金のお見本をつけてマッチングさせて練習する。	
3	お金の簡単な計算ができる。	・「20円のおかしを3つ買うと全部でいくら」「100円で50円のアイスクリームを買うとおつりはいくら」などの問題を解く。	
4	お金と交換に品物がもらえることを知り、お金の計算をしながら買い物をすることができる。	買い物の手順参照	
5	おおよそのお金の大きさがわかり、買えるか買えないかがわかる(3桁まで)。	・3桁の数の大小、おおよそのお金の大きさを理解できるよう、いろいろな金額を書いた品物の中から、「300円持っていたら、どの品物を買えますか」などの問いかけに応える。買い物ごっこで、自分が持っているお金と品物の金額を見比べて買える物を買う練習をする。	
6	身近な物のおおよその金額を理解し、所持金で帰る買えないの判断ができる。	・身近な物がどのくらいの金額なのかの調べ学習を行い、おおよその金額を知る。大きな金額を理解し、所持金で買える買えないをクイズ形式で学習する。	